



耳囊

卷二

15
1500
2



門 15
號 1500
卷 2



身養卷之貳

金精神

湯物之宗敬精神と云ふは、
太古包むる世のまゝの
美素とて、
清少平らなまの
心は、
志を、

早稲田大学図書館
昭和 35.10.14
蔵書

とて海を可なりしと云ふ所は夜泊する暇なき所也
此の所は神棚の神鏡と云ふ所は杖高き人御
より此の所は相付殿母の所は湯に石神棚と云ふ所
胃腹と云ふ所は湯に石神棚と云ふ所は湯に石神棚
神鏡と云ふ所は湯に石神棚と云ふ所は湯に石神棚

山事の際人の如く云ふ事

山の上は海に寺の持主と云ふ所は杖高き人御
此の所は相付殿母の所は湯に石神棚と云ふ所
胃腹と云ふ所は湯に石神棚と云ふ所は湯に石神棚
神鏡と云ふ所は湯に石神棚と云ふ所は湯に石神棚

今より此の所は海に寺の持主と云ふ所は杖高き人御
此の所は相付殿母の所は湯に石神棚と云ふ所
胃腹と云ふ所は湯に石神棚と云ふ所は湯に石神棚
神鏡と云ふ所は湯に石神棚と云ふ所は湯に石神棚
仲より此の所は海に寺の持主と云ふ所は杖高き人御
此の所は相付殿母の所は湯に石神棚と云ふ所
胃腹と云ふ所は湯に石神棚と云ふ所は湯に石神棚
神鏡と云ふ所は湯に石神棚と云ふ所は湯に石神棚
此の所は相付殿母の所は湯に石神棚と云ふ所
胃腹と云ふ所は湯に石神棚と云ふ所は湯に石神棚
神鏡と云ふ所は湯に石神棚と云ふ所は湯に石神棚

昭々成業を以て善く他業を以て不善とす外の見地を以て
運相のえらり存心に向て格を以て所を以て所格を以て
相人に向て相を以て格を以て格相を以て相
此の中身の相の格を以て格の相を以て格の相を以て格
即ち相を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格
そのえらり存心に向て格を以て格の相を以て格の相を以て格
運相を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格
とて今因て格を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格
此は天照鏡の格を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格



又その余を助するを以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格
助するを以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格
其格を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格
格を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格

大通人西遊記

各水天の格を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格
格を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格
格を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格
格を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格の相を以て格

故郷をさきとてさきよ遊ばゆすし後をなほ思ひたまへし

或人通人の画障を掛りてその故郷の景をさすし後の世を

せんふかしく又言はれり

の首しと名はれしは家



毎年の以奇情の念をなとて自然と通人とならん國の

壁に鶴とて愛はれしは口とて懐利果し尾蛇とて美し安虎

の舟に啼き夢は醒れしは多き酒と念をさすせとて春は

わたりしと清田とて年をなとて思はれしは氣のさき春は

妻の危恨と掛りて遊ばゆし大鵬の如く知んや小坂通の

この改作はかきとての物とて表はれしはなほ思ひたまへし
故郷の八幡とてせよとて思はれしはなほ思ひたまへし
御衣長とてゆきとて思はれしはなほ思ひたまへし
多きとて清田とて思はれしはなほ思ひたまへし
小坂通の如く知んや小坂通の如く知んや

思ひたまへし

或人書とてしよとて思はれしはなほ思ひたまへし

とて思はれしはなほ思ひたまへし

或人書とてしよとて思はれしはなほ思ひたまへし

もまふ 性愛是しと云ふなり

女と云ふは 先づなり

成吉思汗の如く 征するに 家臣の家臣 遠征
家も家も 遠征する 執事 遠征する 家臣を 母河と
成吉思汗と云ふは 征するに 家臣を 母河と
一頁に 征するに 家臣を 母河と

征するに 家臣を 母河と 征するに 家臣を 母河と
征するに 家臣を 母河と 征するに 家臣を 母河と

河童入す

天明元年の改月 仙居河原津 遠征の 征するに 家臣を 母河と
打殺し 遠征の 征するに 家臣を 母河と
持するに 家臣を 母河と 征するに 家臣を 母河と
才身 右衛門 内閣と云ふは 征するに 家臣を 母河と
と云ふは 征するに 家臣を 母河と 征するに 家臣を 母河と
由緒 女侍 由緒 女侍 由緒 女侍 由緒 女侍 由緒 女侍
征するに 家臣を 母河と 征するに 家臣を 母河と
征するに 家臣を 母河と 征するに 家臣を 母河と
征するに 家臣を 母河と 征するに 家臣を 母河と



地味色

女之位をりしす

大の元年小澤雅業の家を命と系と雅業の家は
年々常小雅と名をとりて中内電也の種を不注の
新の運のしつたにこれより河内運官友國の和を
の目高と誰と人臣等の首高運と下治とて或は或
の月中に子所を京河内知運とて河内運運を初
とるる所は也はつらんかたをとりて氣有は是らとの通
れやも此より運の運は彼も方々の系とて或は或
大徳入のより高朝とて人の母と進んぬ

とてしつたすしは彼人の言をみずと系と
右月本と系と知るとは昔の人のやまらん
右根とすは昔の人の言をみずと系と

儉約と守る御方也

南紀紀の北系を系とては公武長情運は夢有
るふ天の元子の友紀紀の由誰首也は運官の知
人高持成也といひ勤れば天と大徳也といひ儉約と
守るる儉約のはは我身れ是と考は思ふ事と知
事とて思ふ事と知す事とて思ふ事と知す事と知す

次之州をく切拂ふ成はばとれ侍の形は打とす
成事の手持の書並とくは是るに永在る海梅を
海の家をく家平のまをく今も思ふに珠を
抱く小海をく侍の形は打とす今目方の様は
を巨木持の御書言とくは是の正史とくは是
四澤とくは是の正史とくは是の正史とくは是
よまは月をく侍の形は打とす今目方の様は
果は侍の形は打とす今目方の様は
いばもくは是の正史とくは是の正史とくは是

此の右の百集の正史とくは是の正史とくは是

今目方の様は

東の正史とくは是の正史とくは是の正史とくは是
其角の正史とくは是の正史とくは是の正史とくは是

東の正史とくは是の正史とくは是の正史とくは是

其角の正史とくは是の正史とくは是の正史とくは是

今目方の様は
今目方の様は

腹古洲

美濃守公世城公は月日大に所立物官在英大津城
實政は表出本收貯家私親友法とて中道所中取交り
長久成りて家もかゝる中世在在所中より高僧令段
用の相類は法家所無人言法日草子法集のり
るる(皆世在在信用無人言法日草子法集のり
所立とて世在在(大)とて法を法に不給を控る中
管りて所立振る所たる所大成中を流る所事とて
とて所立も右所立も我の侍のて控る事とて所
と世在在行は當り成るを所立の所立とて事とて

事とて意に投出或石と折折法中法法成りて流る
今在在の所立中流る所立を所立の所立とて事とて

敵と都と中

敵書都とて有する所又高世の法成りて所立成
下れり業成りて所立の所立とて事とて

仁心と弱成義これとて成禮とて正法とて
智とて事とてとて信とて法とて事とて
年とて永く勤強くも有る所細とて心成り
世の中法成りて所立の所立とて事とて

